

保護者向け 60 分講座の参考案

先生の願いの例：子どもの話を聞き、家庭でも本人が考え、選べる関わりを増やしたい。

対象・使う場面	小・中・高校生の保護者。PTA 研修や保護者会で、学校と家庭の関わり方を考える際のたたき台。
講座で目指すこと	子どもとの最近の会話を振り返り、本人の経験や関心を聞く声掛けを一つ選ぶ。
事前に確かめること	先生と保護者の願い、子どもの声や実態、対象学年、話し合える人数、個別の配慮。
先生が検討できるもの	60 分の進め方の案と、持ち帰りシート。学校の目的に合わせて問いや時間を編集する。

学校の願いと子どもの実態を出発点に、必要な部分を選んで使う参考資料です。実施前の案であり、講座の実施実績や効果を示すものではありません。

60 分の進め方の例

既存の講師用台本を基にした時間配分です。保護者の状況に合わせて組み替えます。

時間の目安	扱う内容・参加者が考えること
導入 8 分	最近の会話を思い出し、子どもを応援したい気持ちと困りごとを整理する。
基本 13 分	本人の話を聞く、経験を広げる、考える時間を待つ関わりを考える。
小・中・高 14 分	発達段階と個人差を踏まえ、今の関心・体験・選択をどう支えるか考える。
ワーク 15 分	いつもの一言を言い換える。共有するか、自分の手元に残すかを選ぶ。
まとめ・質疑 10 分	試したい声掛けを一つ決め、気になることを確かめる。

学年別の関わり方は目安です。話したくないときは待つことも選べます。家庭事情や子どもの個人情報の共有は求めません。

持ち帰りシートの例

名前の記入・提出は任意。保護者自身の関わり方を振り返るために使います。

最近の会話を思い出す	場面・いつもの声掛け：
本人が考えやすい問いにする	今度、試したい声掛け：
関わるときに大切にすること	聞く時間・話す場所・待つことなど：
後日、自分の関わりを振り返る	試せたこと・難しかったこと・次に変えたいこと：

架空の記入例：「将来どうするの？」を、「最近、気になっていることはある？」に変えてみる。答えがなくても急がせず、また話せる時間をつくる。

学校と相談して決めること

先生の願いと子どもの実態に照らし、実施する内容・条件・役割を一緒に確かめます。

学校・主催者との確認	開催目的、対象、会場、日程、話し合いの方法、必要な配慮を確認する。
開催条件の相談	対象学年、人数、対面・オンライン等の方法、日程、会場、費用を相談。学校・主催者と支援範囲を確認してお見積もりします。
振り返りと改善	選んだ声掛けや参加者の任意の感想から、次回の内容・時間配分を見直す。子どもの変化を講座の効果と断定しない。
必要に応じた伴走	学校のねらいに合わせた構成・配布物の調整など、役割と範囲を合意して進める。

文部科学省「小学校キャリア教育の手引き」（2022 年 3 月）

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/detail/mext_01951.html

文部科学省「中学校・高等学校キャリア教育の手引き」（2023 年 3 月）

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/detail/mext_00010.html

手引き等を参考にした独自資料です。文部科学省の公式様式ではありません。

[詳しい原資料（全14枚）をPDFで読む](#)

[原資料のPowerPointを開く](#)

必要に応じた伴走・相談：toimanabi.com/services.html